

草津市幼保一体化検討委員会主な意見のまとめ（第2回の振り返り）

項目	内容
短時部・長時部の移行	スムーズにしているという感想を持った。特にお迎えの時間、交代の時間がスムーズに移行していた。
	とてもスムーズだった。帽子の色で分かれていて、長時部はちゃんと隣の部屋に移動していたのが印象的。4、5歳児はスムーズに移動できるということが実際に見てわかった。
	保育の部分では、コアタイムを大事にされているということだったが、4、5時間の短時部と、7、8時間の長時部というふたつの部がある中で、どちらにおいてもしっかりと子どもたちを保育していかなければいけない。
幼保小の連携	小学校のグラウンドが近く、小学校での体育の授業や避難訓練を子どもたちは自然な形で見て学んでいる。
保護者同士の交流	長時部・短時部の保護者が懇談する機会をもっている。そこでの学び合いというのは、子育てにおいても大変貴重な機会になると思う。
保育士・教諭の連携	苦労して乗り越えられたからこそ見えてくる、子どもにとってのいい生活、先生たち同士のコミュニケーションが大切だと改めて思った。
	短時部が降園する際の先生たちの連携がとてもよかった。担任の先生が後援指導で保護者に話をしている間に、フリーの先生が長時部を次の保育につなげていた。
保育士・教諭の動き、活動	先生方の御苦労もとても見えた。子どもを一番に考えた保育を考えていた。先生が、苦労も多々あったが楽しむことが一番とおっしゃっていて、実際に楽しんで保育・教育に携わっておられるように見えた。
	先生たちの研究会や会議も、なるべく早い時間に行うことで、先生の保育のカリキュラムを組む時間を減らさないようにという工夫がされているから、先生たちも子どもたちとの生活を楽しんでおられるのだということがよくわかった。
	長時部の子どもの心のケアについて気になっていたが、このこども園では先生方も家族のように接するとか、そういった努力をされていて、それがしっかりとできているように感じた。

項目	内 容
敷地や施設の広さ	草津市でこども園になったときの1人当たりの平米数。また、給食を食べる部屋とか、お昼寝をする部屋とか、そういう生活をする場を分けたことが、子どもたちの安定につながったということだったが、幼稚園の場合は改革をしなければいけないことがたくさんある。
	施設そのものがゆったりとしていて広がった。度々起こる様々な課題を、ゆとりのある部屋があることで、色々な対応ができるということもあると思う。施設を新しくする場合は、ゆとり、という部分にもしっかり着目しなければいけない。
認定こども園への移行期間や理解	生活のけじめや生活の切りというものが上手くできているのは、長い時間をかけてやってこられた成果だと思う。子どもにとって生活の実態に合った保育内容、流れをつくらなければいけないと改めて感じた。
	色々問題は発生するという事を考えると、やはり認定こども園に移行する際は、3年くらいの猶予があったほうが保護者の理解は得やすいと思う。